

令和五年度

海外帰国生入学試験問題 国語

令和四年十二月九日実施

試験開始の合図があるまで問題用紙は開かず、左記の注意事項をよく読んでおきなさい。

- 一、問題は二十五ページまであります。足りないページや、印刷のよく見えないページがあったときは、手を上げて申し出てください。
- 二、解答用紙は別になっています。答えはすべてそこに記入してください。
- 三、解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。
- 四、問題用紙には、受験番号・氏名を書く必要はありません。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。*のついた説明は出題者が加えたものです。)

「学習支援教室(*日本語指導が必要な外国人児童・生徒の学習支援をする教室)の林田といいます」
名乗ると、「ああ」と曖昧な答えが返ってきた。

「電話の人？」

「そうです。はじめまして」

お世話になっていきます、くらいの返事があるかと思っただが、相手は黙って私を見ている。なぜここにいるのか、と視線で問いかけていた。ジュリアは今日、母親に内緒で支援教室を訪れている。

「娘さんに関して、お話ししたいことがあって」

「話？ 私に？」

「はい。少しだけお時間もらえますか」

すかさず、ジュリアがポルトガル語らしき言葉で口を挟んだ。母親もすぐに言い返す。母子ともに険しい顔つきだった。何往復か言葉のラリーが続き、最後は母親のほう折れた。不満そうだが、私に向かってA手招きをしてみせる。

(中略)

「それで。話は」

苛立ちを露わに、ジュリアの母親は切り出した。発音には癖があるが、日本語は一通り話すことができるらしい。

「娘さんに、教室に行かないよう言ったんですか」

「それ、なんで言わないといけない？ あそこ、タダと違う。五百円取る」

「じゃあ、退会の連絡はしましたか」

「これからする。それでいい？」

B 早々に話を切り上げたいという意思が透けて見える。その態度にC 苛立ちを覚えた。

「なぜ教室に通うのをやめさせたんですか。これからののに」

「だから。あなたは誰。知らない人。何を言ってるの」

相手はさらにD 刺々しい態度になる。表情には明確にE 敵意が宿っていた。

「すぐブラジルに帰る、と言いませんでしたか」

「言っていない」

その返答にジュリアが反論する。ポルトガル語だったから内容は聞き取れないが、激しい口ぶりから、母親を非難しているのは明らかだった。①娘の剣幕に押されたのか、母親は②□をすくめた。

「すぐ、って言ったかも」

「いつ帰国される予定ですか。年内とか」

「まあ、二、三年はいるよ。それもすぐでしょ？」

私の感覚では、数年後に帰国することを、【 X 】【 】,とは言わないが。

「どうして支援教室に反対なんですか。最初はお母さんが勧めたんでしょう」

たまりかねて③直球の質問をぶつけた。

ジュリアの母親は **a** 何も言わなかった。ゴミだと思っていたコーラの缶を持ち上げ、喉を鳴らして中身を飲む。口元を拭い、娘を横目で見て、ようやく答えた。

「そのうち、ポルトガル語、忘れるよ」

「……はい？」

「私がポルトガル語で話したら、ジュリア、日本語で返事する。何回も、何回も。おかしいよ。なんで返事だけ日本語？ もうポルトガル語、話さないつもりと思った。そうしたら、どんどん忘れる。使わなかったら言葉は忘れる。ブラジルに戻れない。怖くなったよ。だから怒った。そうしたらジュリア、それでいい、ブラジル帰らなくていい。言われて、かーっとなって……日本語覚えてなら、もう教室行かなくていい、行くな、って」

声のトーンが湿っている。④喧嘩の原因はそれだったらしい。

「ノートを折ったのは？」

「ジュリア、ノートに日本語書いてた。こっそり読んだら、私が知らない言葉も……びっくりした。ジュリアが帰ってきて、隠そうとして、折れた」

どうやら悪意をもってノートを折ったわけではないらしい。それでもこっそりノートを読まれたジュリアは、いい気はしなかっただろう。母親は **b** ジュリアを抱き寄せる。⑤ジュリアも硬い表情ではあるが、なされるがままだった。

「私、両親も日系。私は三世ね。日本語忘れないでって、両親教えてくれた。小さい時から。だから、日本に何度も出稼ぎに来ていい。ジュリアは日本、初めて。寂しいから連れてきた。離れたくない。でも日本語どんどん覚えて、いつか、ポルトガル語忘れる。そ

うしたら、ポルトガル語で話せない。寂しいよ」

母親は切ない目でジュリアの髪を撫でている。親として、子どもの学ぶ権利を制限することには同意できないが、母親としての感情は理解できる気がした。

ジュリアの母親と、自分の母親の顔が二重写しになる。

もしかしたら。

⑥私は勘違いをしていたのかもしれない。アメリカにいたころ、親が c 日本語を教えてくれなかったんじゃない。d 当時の

私には、英語しか見えていなかった。小学校でもクラブ活動でも、話すのは英語だった。親は、幼い私の社会活動を応援してくれたからこそ、日本語を話すことを強制しなかった。

どうして日本語を教えてくれなかったの、という文句は、逆恨みに過ぎなかった。

⑦現地の言葉を話すこと。⑧ルーツの言葉を話すこと。どちらが正しいというわけじゃない。寂しいと思うのも、応援したいと思うのも、親心だ。

ジュリアの潤んだ目が私を見ていた。彼女の感情は、二つの国の間で揺れ動いている。

「ノートに書かれた詩を、読みましたか」

できるだけ刺激しないよう、静かな声で問いかけた。母親は「読んでない」と言った。きっと、ノートに書いてある文字が日本語であることだけ確認したのでだろう。

ジュリアが母親の手を逃れた。バッグから折られた跡のあるノートを取り出すと、母親は気まずそうに目を伏せる。ページをめくるジュリアの目は、発表会で見た時と同じように真剣だった。

「お母さんに読んであげたら？」

うなずいて、ジュリアはノートを両手でつかんだ。開いたページには、私の清書した筆跡ひつせきが残されている。そこに書かれているのは、ジュリアが書き、私が訳した詩だ。

「『あしたになったら』」

洋室に少女の声ひびが響き渡わたった。

あしたになったら

となりのまちまで 行ってみよう

知らないみちを あるいてみよう

あしたになったら

あたらしいともだちを つくろう

ゆうきをだして はなしかけよう

決して、うまい朗読ろうどくではない。ところどころ詰まり、読み間違まちがえる。発音なめも滑らかではないし、聞き取れない箇所かしよもある。ジュリアの母親は邪魔じゃまをせず、不安そうな顔で娘の朗読を見守っていた。

あしたになったら

おかあさんと ごはんをたべよう

おいしいおかずを かっていこう

あしたになったら

うまれたまちに でんわをしよう

どこにいても わすれないように

静かになった部屋で、ジュリアの母親は目に涙を溜めていた。私も同じだった。指先で拭うと、爪が濡れた。

「この子は、賢いんだよ」

ジュリアの母親がか細い声で言った。

「教室に行かないでも、日本語覚える。賢いから。たぶんひとりで勉強する。私もわかってるよ。母親だから。でも寂しいよ。ブラジルの言葉も、ブラジルのことも忘れてしまったら」

「あなたは日本語を話せるけど、ブラジルのことを忘れていないじゃないですか。きっとジュリアちゃんも同じですよ」

【 Y 【。詩の一節を私は心のなかで復唱する。

子どもが旅立つのは寂しい。でも遅かれ早かれ、いつかは親の手から旅立つんだ。大人になって、独り立ちして、ふと故郷のことを振り返って、たまには帰ってみようかな、と思ってくれるくらいでちょうどいい。

少し立ち入りすぎてしまったかもしれない。座椅子から立って、ジュリアのように深々と頭を下げた。

(岩井圭也

『生者のポエトリー』所収『あしたになったら』による)

問1 —線A～Eは、それぞれ登場人物の動作や様子を表している。他と異なる人物の動作・様子を表したものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- A 手招きをしてみせる
- B 早々に話を切り上げたい
- C 苛立ちを覚えた
- D 刺々しい態度になる
- E 敵意が宿っていた

問2 —線①「娘の剣幕に押された」とあるが、その様子からわかる「娘」の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 帰国の具体的な予定も決まっていないのに、帰ると言ったことに対して大きな不満を抱いている。
- ロ ただちに帰国すると言っていたのに、それをとぼけて否定していることに対して激しくおこっている。
- ハ 教室をやめなくてはならないのに、話がなかなか出てこないことに対して強くいらだちを感じている。
- ニ せっかくポルトガル語で親子げんかをしたのに、うまく気持ちが伝わらないことに対して悲しんでいる。

問3 —線②「□をすくめた」の□に当てはまる言葉を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 目
- ロ 肩かた
- ハ 胸
- ニ 耳
- ホ 腕うで

問4 「 X 」に当てはまる四字の表現を、考えて答えなさい。

問5 ——線③「直球の質問をぶつけた」という表現からわかることはどのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ ジュリア母子に対して、早急に答えを求めること。 ロ ジュリア母子に対して、より深い理解を望むこと。

ハ ジュリアの母親に対して、とがめだてしていること。 ニ ジュリアの母親に対して、遠慮えんりょしていないこと。

問6 ——線④「喧嘩の原因はそれだったらしい」とあるが、「喧嘩の原因」とは具体的にどういうことだったのか。「ジュリアが」、「お母さんが」という二つの言葉を必ず用いて、四十字以上五十字以内で答えなさい。

問7

a

d

 のそれぞれに当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。同じ記号は二度使えない。

イ あえて ロ おもむろに ハ そもそも ニ しばらく

問8 ——線⑤「ジュリアも硬い表情ではあるが、なされるがままだった」とあるが、その表現から想像できるジュリアの気持ちの説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 勝手にノートを見られたことは許せないが、母親の気持ちを聞いてその感情が和やむらいた。

ロ ジュリアの気持ちを知っているのに、帰国を決めた母親に対して不信感を抱いている。

ハ それまで母親を理解できなかったが、自分に対する深い愛情に気づいて謝罪している。

ニ ノートに書かれている内容もわからないのに、自分を責める母親の気持ちがわからない。

問9 ———線⑥「私は勘違いをしていたのかもしれない」とあるが、「私」の「親」はどのようなことを考えていたと思われるか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 私の気持ちも尊重して異国では日本語を教えなかったのではないかということ。

ロ 私の好きなことを応援して苦手なことを排除はじよしたかったのではないかということ。

ハ 私が自分から離れるはなることを心配しつつ英語を勉強させていたのではないかということ。

ニ 私も自分も異国での生活が寂しくないように英語で話していたのではないかということ。

問10 ———線⑦「現地の言葉」、⑧「ルーツの言葉」とあるが、「私」と「ジュリア」の場合は、何を指しているか。それを説明した次の文の（1）～（4）にあてはまる六字以内の言葉を、それぞれ文章中からぬき出して答えなさい。同じ語を二度以上使ってもよい。

・「私」にとつての「現地の言葉」とは（1）であり、「ルーツの言葉」とは（2）である。

一方、「ジュリア」にとつての「現地の言葉」とは（3）であり、「ルーツの言葉」とは（4）である。

問11 【 】に当てはまる表現を、詩『あしたになったら』から探して一行をぬき出して答えなさい。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、本文を変えているところがあります。なお、文章中に出てくる「捕食者」ほしよくしやとは「他の動物を捕らえて食べる動物」、「擬態」ぎたいとは、「動物が他の動物の様子や姿に似せること」を意味します。)

カムフラージュは動物がまわりにあるものに色や形を似せることで、捕食者から身を隠すかくテクニックでした。捕食者をだますウソの1つです。

一方、ミューラー型擬態は、捕食者に対して毒などの害を持つ動物どうしが互いに色や模様を似せることで、捕食者が「こういう見た目のやつはまずいし危ない」と学習する機会を増やし、それぞれの個体にとっての生き残りの可能性を増やすものでした。この時、より弱い毒しか持たない種が、もつと強い毒を持つ種しゅの姿をまねていると捉えとらえられる場合、イメージを「寄せている」とはいえるかもしれませんが、寄せている側も X のは事実なので、厳密げんみつには「ウソをついている」ということにはならないかもしれません。

でも、まったく毒などを持たない動物が、毒のある動物の姿を借りているとしたらどうでしょうか。おもちゃのピストルで「来たら撃つぞ」と言っているようなものですが、捕食者が本物のピストルだと思いきんでくれたら、一定の効果は期待できそうですね。このパートでは、そういった例についてお話しします。

イギリスの博物学者ヘンリー・ウォルター・ベイツは1861年に、彼自身かれのアマゾンでのチョウの調査もとに基づく成果を発表しまし

た。アマゾンには多くの「毒があるまじいチョウ」がいます。彼らは進化の系統としても近く、細長い羽に黒地に赤・白・黄色のまだらや帯を持っています。これらは警告色として理解できます。

a 採集したチョウを整理するなかでベイツは大きな発見をします。ひとまとめにできると考えた「毒チョウ」の中に、まったくちがう系統のチョウが混じっていたのです。

b それらは毒のないチョウでした。ベイツは、この現象を以下のように考えました。

「毒があるまじいチョウ」を食べた鳥などはその経験から学習して、同じような姿のチョウたちを避けるようになる(警告色)。

c、毒を持たなくとも、似たような姿をしている他の種のチョウも食われなくなるだろう。

d、毒を持たないまじったくちがう

系統のチョウたちの中からも、毒チョウに似たものが生き残り、いまあるような種ができてきたのだ。

このように、もともとおいしくて捕食者に狙われてしまう種が、まずくて避けられる種の警告色などをまねるように進化して、捕食者の攻撃から逃れることは、発見者にちなんで「①ベイツ型擬態」と呼ばれるようになりました。

「羹に懲りて膾を吹く」ということわざがあります。熱いお吸い物(あつもの)でやけどをした人が、それをこわがるあまり、冷たい酔(す)の物(なます)でもふーふー吹いて冷まそうとする、ということ、以前の失敗のせいで必要以上の用心をしてしまうという意味です。毒のないベイツ型擬態のチョウを避ける鳥は、彼ら自身にとっては「これも②『あつもの』(I)『かもしれない』という用心ですが、「なます」(II)にとつては、みごとにだましたということになります。

ベイツ型擬態は、ベイツの発表のわずか2年前の1859年に『種の起源』という本を出版して本格的な進化論をつくりあげようとしていたダーウィンから高い評価を得ました。ベイツの考えたようなかたちで、捕食者をふくむ環境にうまく適応した個体が生き残り(適者生存)、1つの動物種が誕生するというのは、ダーウィンが考える③進化のシナリオそのままだったからです。

しかし、ここですぐに、1つのさらなる謎なぞが見つかります。それは、東南アジアのマレー諸島の動物たちを研究したことで知られるアルフレッド・ラッセル・ウォレスによって発表されました。ウォレスはベイツの友人で、そもそもベイツをブラジルでの調査に誘ったのもウォレスです。しかし、ウォレスは先にイギリスに帰り、あらためてマレー諸島での調査研究で活躍かつやくすることになったのです。ウォレスは東南アジアでもベイツ型擬態のチョウがたくさん見られることを報告しましたが、同時にそうやって擬態しているのはメスだけだという発見もしたのです。オスとメスの両方がベイツ型擬態をするチョウもいますが、さまざまな種のチョウでメスへのかたよりがわかってきます。さらには、メスのすべてが擬態しているわけではないということもわかってきます。ベイツ型擬態は捕食者の目をあざむく方法として理解されるので、オスでもメスでも効果があるはずで、ならばどうして、メスだけが擬態する種があるのでしょうか。さらに、個体どうしの生き残り競争という点でも、ベイツ型擬態は有利だからこそ進化したはずで、ならば、擬態しないメスがいるのも理解できません。深まる謎のなかでたくさん研究者たちが長い年月、研究と議論を重ね、やがて、さらなる進化のしくみが見えてくることとなります。

シロオビアゲハはアジア一帯からオーストラリアにまで広く分布し、現在、日本でも沖縄おきなわにすむチョウです。羽も体も、全体としては黒いのですが、羽を横切って白い帯があるのが特徴とくちょうです。このシロオビアゲハのメスには、羽の下側に赤い模様が混じるものがあります。この模様の変化は、ベイツ型擬態の一例として知られています。

シロオビアゲハのすむ地域にはベニモンアゲハというチョウがいます。彼らは「毒のあるまずいチョウ」ですが、シロオビアゲハのメスの羽に見られる変化は、このベニモンアゲハに擬態したものと④考えられるのです。実際、沖縄（琉球列島）でもベニモンアゲハがいない竹富島では変異型のシロオビアゲハはいません。⑤モデルがない場所では捕食者であるヒヨドリなどが「この模様のチョウはまずい」と学習する機会もなく、擬態が進化する意味がないからです。

さらに、南インドとスリランカでは、擬態型と考えられるシロオビアゲハのメスは他の地域と模様の入り方で見分けられるものがあります。これはちがうモデルに擬態しているからです。このような地域にはベニモンアゲハと近い別種のヘクトールベニモンアゲハがいて、同じように「毒があるまずいチョウ」なのですが、シロオビアゲハのメスたちはこのヘクトールベニモンアゲハに擬態しているのです。

よく、その土地の名物になる食べものなどに「ご当地ならではの」という言い方をしますが、ヘクトールベニモンアゲハに擬態するシロオビアゲハは、まさに⑥ご当地カラーといえるでしょう。

ベイツ型擬態が、その種のすべてではなく、メスの、しかも一部だけに起きることがあるのをウオレスが指摘したことはすでにお話ししましたが、このシロオビアゲハはその時、重要な証拠となったのです。そして、それから150年ほどたったつい最近、再びシロオビアゲハを中心とした研究が、⑦この大きな謎に1つの答えを与えました。それは日本の昆虫学者の大崎直太の仕事でした。以下しばらく、大崎の研究に学んで、その謎解きのあらましを紹介していきましょう。

メスだけが擬態するのも不思議ですが、擬態するのが一部のメスだけというのはもつと不思議なことに思えます。同じ種のメスどうしなら、それだけ生きていくための条件も近いと考えられます。ならば、擬態の効果も有利かそうでないか、どちらかに決まりそう

ものです。そういう目でシロオビアゲハを見ると、メスのうちのどれくらいが擬態するかは偶然ぐうぜんによって決まることではないように見えてきました。どうやら一定の比率で、擬態個体と原型個体が分かれるようなのです。そこで、この比率を説明することに研究が集中していくことになりました。

ここで、ミューラー型擬態とはちがって、ベイツ型擬態は根本のところでは捕食者にウソをついているということを出しませう。ミューラー型擬態ならば、そうやって姿を似せあっている種のどの個体が捕食者に食べられたとしても、彼ら全体が「毒のあるまぜいチョウ」として認識されることになります。どの個体が食べられるかは運不運ですが、捕食者の学習は確実になりたちます。しかし、ベイツ型擬態ならばどうか。捕食者である鳥などの目にひとまとめにされるチョウたちの中には、本当にまぜいチョウ（ベニモンアゲハ）も、実はおいしいけれどまぜいふりをしているチョウ（シロオビアゲハ）も混ざっていることになりました。鳥がどちらの種の個体を捕つかまえるかは決まっています。ベニモンアゲハが食べられれば学習はなりたちますが、シロオビアゲハが食べられれば、その段階ではむしろ「目立つ模様で捕まえやすい、おいしいチョウ」と受け取られることになってしまいます。こうして、同じように見えるチョウたちの中にどのくらいの割合で擬態種が混じっているかが問題となってくるのです。

ここで、時々、バラエティー番組などに出てくる「ロシアン寿司すし」などと呼ばれるものを思い浮かべてみましょう。「ロシアン寿司」は、見た目にはおいしそうな寿司のいくつかの中に、ワサビがたっぷり入っていて、食べたらずい目にあうものが1つだけ隠かくされているというしかけです。

- A この運を競うきそのが、もともとの「ロシアン寿司」です。
- B 10個のうちの8個にワサビが入っていても、大概たいていは「はずれ」を引いてしまうことになります。
- C そして、10個のうちの1個だけがワサビ入りなら、当たった人は運が悪いということになるでしょう。
- D しかし、ワサビ入りとワサビぬきが5個ずつなら、アウトの可能性も半々になります。1〜2回では「だいじょうぶだ、この寿司はからくない」ということになるかもしれません。
- E ここでもし、全部がワサビ入りの寿司で、それをワサビが大嫌だいきらいな人が食べるとしたら、1つでも食べれば、もう二度とワサビ入りかもしれない寿司は食べたくないということになるでしょう。

このように、鳥たちの前にあらわれるよく似たチョウたちの中に、「ワサビ入り（まずいチョウ）」が多ければ多いほど、まずいふりをして「ワサビ抜き（おいしいチョウ）」は有利であることになります。この状態ならば、進化のしくみはベイツ型擬態をする個体を増やす方に向かいます。

しかし、あまり擬態個体が増えすぎると今度は「わたしはまずいですよ」という擬態のメッセージが意味を持たなくなっていくます。そうなれば、⑧擬態しても有利とは言えません。こうして、うまくバランスが取れるところに落ち着くのだろうという考え方が、すべてのメスが擬態するわけではないという謎の合理的な解釈かいしやくとして提出され、進化論はまたワンスステップ、発展することになったのです。

（森 由民ゆみん 著・村田浩一こういち 監修『ウソをつく生き物たち』による）

問1 Xに当てはまる表現として最も適当なものを次から一つ選んで、記号で答えなさい。

イ 生き残っている ロ 学習している ハ 毒を持っている ニ 身を隠している

問2 a dに当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つずつ選んで記号で答えなさい。同じ記号は二回以

上使用しない。

イ こうして ロ すると ハ しかも ニ ところが

問3 ——線①「ベイツ型擬態」とはどのような擬態か。具体的に説明した次の文の【】に当てはまる表現を、文章中の言葉を用いて二十字前後で答えなさい。ただし、解答は「何が……どうする」の形に合うようにすること。

・【】という目的でまずい種の警告色などをまねする擬態。

問4 ——線②の（Ⅰ）には「あつもの」に、（Ⅱ）には「なます」にたとえたものがそれぞれ入る。（Ⅰ）、（Ⅱ）に当てはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

イ Ⅰ 赤いチョウ ・ Ⅱ 黄色いチョウ ロ Ⅰ 擬態したチョウ ・ Ⅱ 進化したチョウ
ハ Ⅰ 毒チョウ ・ Ⅱ 無毒のチョウ ニ Ⅰ まずいチョウ ・ Ⅱ おいしいチョウ

問5 — 線③ 「進化のシナリオ」の内容として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 適した環境を目指して種が生き残り競争をしていくということ。

ロ 環境に最もよく適合したものが種を存続できるということ。

ハ 一つの種が誕生するために必ずベイツ型擬態をするということ。

ニ 捕食者に狙われた種が警告色をまねして用心し続けるということ。

問6 — 線④ 「考えられる」と同じ性質の「られる」をふくんだ文を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ まわりの人からジロジロ見られる。 ロ 休み時間に校長先生が教室へ来られる。

ハ 入院中の祖母の病状が案じられる。 ニ やさしい問題にはすぐに答えられる。

問7 — 線⑤ 「モデル」とあるが、この場合の「モデル」とは何を指しているか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ シロオビアゲハ ロ ベニモンアゲハ ハ 変異型のシロオビアゲハ ニ ヘクトールベニモンアゲハ

問8 — 線⑥ 「当地カラー」について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 「当地カラー」とはどのような意味で用いられているか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ その土地で固有の色 ロ その土地で有名な色 ハ その土地で目立つ色 ニ その土地で多い色

(2) 「当地カラー」の具体的な例として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 南インドとスリランカに生息するヘクトールベニモンアゲハのような模様。
- ロ 沖縄（琉球列島）竹富島に生息する典型的なベニモンアゲハのような模様。
- ハ 東南アジアに生息する羽の下に白い帯状の線があるベニモンアゲハの模様。
- ニ 他地域に生息する別種のシロモンアゲハのメスに擬態しているオスの模様。

問9 — 線⑦「この大きな謎」とはどのような謎ですか。それを説明した次の文の【 】に当てはまる十七字の表現を、

これより後の文章中から十七字で探し、最初の四字をぬき出さない。

【 】という謎。

問10 文章中の——線に囲まれたA～Eの各文を意味が通るように並べかえた順序として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記

号で答えなさい。

- イ A ↓ C ↓ B ↓ E ↓ D
- ロ B ↓ D ↓ A ↓ E ↓ C
- ハ C ↓ B ↓ E ↓ A ↓ D
- ニ D ↓ C ↓ A ↓ E ↓ B
- ホ E ↓ B ↓ D ↓ C ↓ A

問11 ——線⑧「擬態しても有利とは言えません」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで答えなさい。

- イ 擬態個体が多くなりすぎると食べた時にまずさを感じる機会が減り、捕食者は疑いなくどのチョウも食べてしまうから。
- ロ 捕食者に「おいしいチョウ」であることがわかってしまうと、そもそも擬態する意味がなくなってしまうといえるから。
- ハ 擬態個体の「わたしはまずいですよ」というメッセージが強すぎて、擬態をしている効果がだんだんうすれてしまうから。
- ニ おいしいけれどもまずいふりをしているチョウは、カモフラージュをすることで捕食者にたくみにウソをついているから。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

将棋しょうぎや囲碁いごの例を引くまでもなく、AI（人工知能）は私たちの日常のあらゆる分野に着々と根を張りつつある。「七月六日はサラダ記念日」の歌で知られる歌人、俵万智たわらまちさんに短歌を生成するAIを体験してもらい、AIと創作の未来について考えた。

東京・築地つぎじの朝日新聞東京本社。俵さんが「短歌AI」を搭載たいていしたパソコンの画面と向き合っていた。

「短歌AI」は大量の言語データを使って①の短歌のリズムや言葉の並び方をAIに学習させたもので、②任意の言葉を入力すると、それに続けて無数の短歌を生成する。朝日新聞社の「メディア研究開発センター」が開発した。現在のモデルでは1・1秒で100首の短歌を生成する。

俵さんが「手帳持ってきていい？」と席すいを立たった。推敲すいこうしている途中とちゆうの歌をAIに入れてみたい、という。

「実感のないこと歌になりづらし」。

俵さんが読み上げた①上の句を、②タントウシヤたんとうしやがパソコンに入力する。

……〈実感のないこと歌になりづらし われに歌ありとうしろ姿に〉 〈実感のないこと歌になりづらし 喝采かつさいを受けずにはいられな
い〉……

AIが生成した歌がずらりと画面に表示され、俵さんが身を乗り出した。

「なるほど。そばにあったら、ちよつといい気分転換てんかんになりそう」

歌をつくる際の③「壁打ち」の相手になってくれそうだ、と俵さん。自分が思いついた上の句にAIがどんな下の句を続けるのか見ていくことで、求める表現に近づく手がかりが得られるのではないかと、思ったという。

続いてタントウシヤが紹介したのは、俵さんの6冊の歌集を短歌AIに学習させた「万智さんAI」。今度は「二週間前に赤本注文す」という別の上の句を入力すると、こんな歌が並んだ。

……へ二週間前に赤本注文す この本のこときつと息子はへ二週間前に赤本注文す 父は病氣のことを書かねばへ……

「おおー」と俵さんが驚いた表情をみせた。「④私に寄せてきた。文体を学ばれているのかな」

さらに別の作品の上の句を試していた俵さんが、「これうまくない？ ⑤やられたな」と声をあげた。へ一人称あまり使わぬ日本語

に 君の心を隠しているかへという一首だ。

俵さんが考えていた下の句は「⑥」を意味する言の葉多し」。日本語は主語を(3)ハブくことが多いのに、英語「I」に相当する言葉がいろいろあるのはなぜ、という歌だ。「その答えを『君の心を隠しているか』が出してくれているみたい。魅力的な下の句です」

俵さんは、自身の歌集を学習したことでAIが生成する作品の傾向が大きく変わったことに、人間が短歌を学ぶ過程と⑦共通するものを感じたという。

「先人の歌をたくさん覚えることが力になる。AIは、私たちが歌をどう学んでいったらよいか、ヒントを与えてくれると思います」

一方で俵さんは「⑧AIに名歌をつくってもらう必要はない」とも語った。

「歌をつくることは、自分の心の揺れを見つめ、感じたことを味わい直すこと。AIはよりよい表現を模索するための相棒になってくれそうだけれど、歌の種は人の心にあるわけで、歌を詠むのはあくまで自分ですから」

朝日歌壇の選者で細胞生物学者としても知られる歌人、永田和宏さんは短歌を生成するAIについて「A」と「B」の関係という問題に関わってくる」と指摘する。「AIがつくった作品だと知らずに感激した後、AがAIだとわかったら、僕は失望すると思う。だけど最初の感激はうそだったのかと言われるとうそじゃない」

歌はAだけのものではない、と永田さんは言う。「一番言いたい部分はBに引き出してもらうのが歌の読みだと僕は思っているんです。そういう読み方をしたとき、作者がAIであることがどう作用するのか。短歌AIの登場は、作者とは何か、私とは何かということまで深めた議論の⑨導火線になると感じています」

(朝日新聞 二〇二二年七月六日 朝刊記事による)

問1 ①に当てはまるリズムを言い表した言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ ハ長調 ロ ヘ短調 ハ 五・七・五 ニ 五・七・五・七・七 ホ 五・七・五・五・五

問2 ——線②「任意」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ その人の意思にまかせること。 ロ その人が良いとみとめること。

ハ 世間の人々がしもとめること。 ニ 世間できめられていること。

問3 ——線③ 『壁打ち』の相手になってくれそうだ」とあるが、「壁打ち」とはテニスなどで壁に向かってボールを打ち返す練習のことを言う。そのことをふまえて考えると「AI」が「歌をつくる際」にしてくれることとはどのようなことか。最も適当なものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 自分に実感のない短歌を批評してもらい、情感あふれる短歌を完成してもらおうこと。

ロ 短歌のテーマとなる言葉を次々と入力することで、短歌をたくさん作ってくれること。

ハ 自分が作った短歌に評価をくだしてもらい、その評価を参考にして短歌を作り直すこと。

ニ 作成途中の短歌のことばを入力すると、短歌を完成するための表現のヒントをくれること。

問4 ——線④ 「私に寄せてきた」とあるが、これはどのようなことを述べているのか。「短歌」「表現」という言葉を用いて二十字前後で説明しなさい。

問5 ——線⑤ 「やられたな」とあるが、これはどのような意味で使われているか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 自分が短歌を作るヒントをもらったと感じた。 ロ 自分の思いもよらなかった表現に驚きを感じた。

ハ 自分は他の歌人に比べていたらないと感じた。 ニ 自分の短歌の弱点に気づかされて敗北を感じた。

問6 【⑥】に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ かれ ロ きみ ハ それ ニ われ

問7 ——線⑦「共通するものを感じた」とあるが、「俵さん」を感じた「共通するもの」とはどのようなことを表すか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ AIに多くの歌人の短歌を入力することで、自身の歌集が完成に近づいていくこと。

ロ かつての歌人たちの短歌を記録することで、新たな名歌が誕生するきっかけとなること。

ハ 現存する短歌をより多く読んで記憶することで、様々な表現を考える手がかりとなること。

ニ 今まで生きてきた人たちの人となりを知ること、短歌を作成する糸口が見えてくること。

問8 ——線⑧「AIに名歌をつくってもらう必要はない」と「俵さん」が考えた理由として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 表現のヒントをAIからもらうことはあっても、短歌はAIではなく人間の心が生み出すものだから。

ロ 作成のきっかけがAIにあるかもしれないが、人間の作る短歌の特質は大きく変化しないものだから。

ハ AIに短歌作成の力があつたとしても、短歌自体の表現は最終的に人間が選ぶことになっているから。

ニ AIがたくさんの短歌を学習していたとしても、その中から名歌を確定するのは人間しかないから。

問9 A、Bに当てはまる言葉として最も適当なものを、次から一つずつ選んで答えなさい。同じ記号には同じ言葉が入る。

- イ 相棒 ロ 感激 ハ 作者 ニ 心情 ホ 読者 ヘ 表現

問10 — 線⑨「導火線」とは、ここではどのような意味で使われているか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 絞りこみ ロ きっかけ ハ 結論 ニ 根拠こんきよ

問11 — 線(1)「上の句」の読み方をひらがなで答えなさい。また、(2)「タントウシャ」、(3)「ハブク」のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

本校の許可無く、掲載内容の一部およびすべてを複製、転載または配布、印刷するなど、第三者の利用に供することを禁止致します。